

ABC分析



行動を3つのブロックに分解して解剖する



行動の「引き金」
(環境・きっかけ)
(環境・きっかけ)

実際に起きたこと
実際に起きたこと
(カメラで撮れる客観的事実)

子どもが得た
「メリット」
(結果)

ABCの各パーツには何が入るのか？

A A

時間、場所、音、
人の声かけ、活動の
切り替え。

「何がスイッチを
押したか？」

B B

叩く、泣く、走
る、座る。

「解釈を交えず、
事実だけを記録する」

C C

注目された、嫌なこ
とを回避できた、
おもちゃを得た。

「その行動で、子ども
にとってどんな『良い
こと』があったか？」

【個人ワーク】

事例をA・B・Cの箱に仕分けてみましょう



「お片付けの時間に、お友達を叩いてしまった」
(指導員がお片付けの合図を出した直後、隣にいた子を叩き、結果として
お片付けに参加せず指導員と別室へ行った)

A

A dashed rectangular box for writing notes under category A.

B

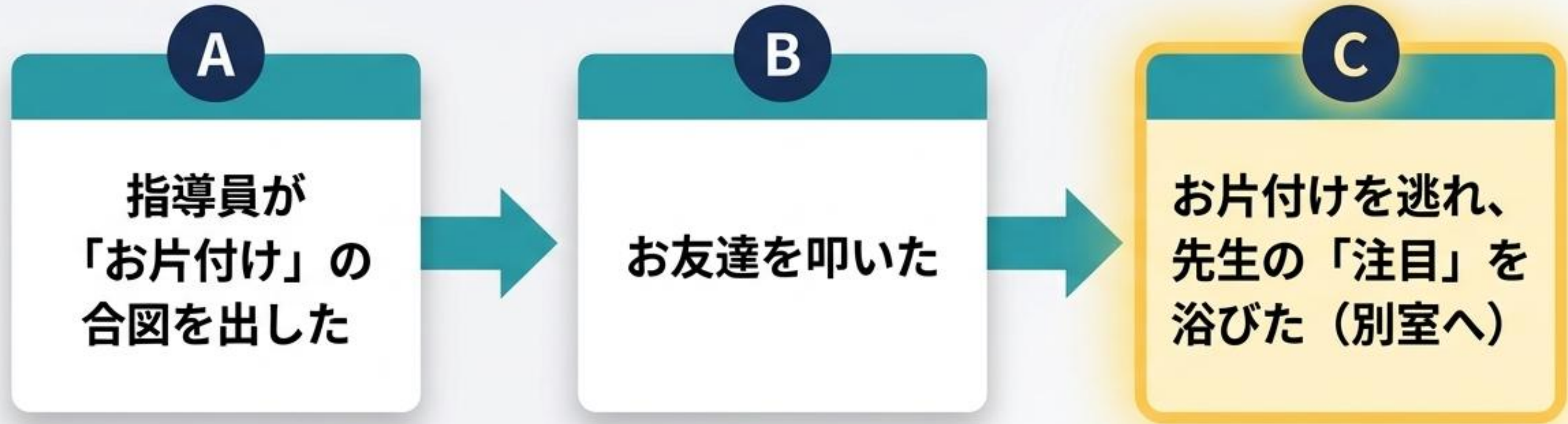
A dashed rectangular box for writing notes under category B.

C

A dashed rectangular box for writing notes under category C.

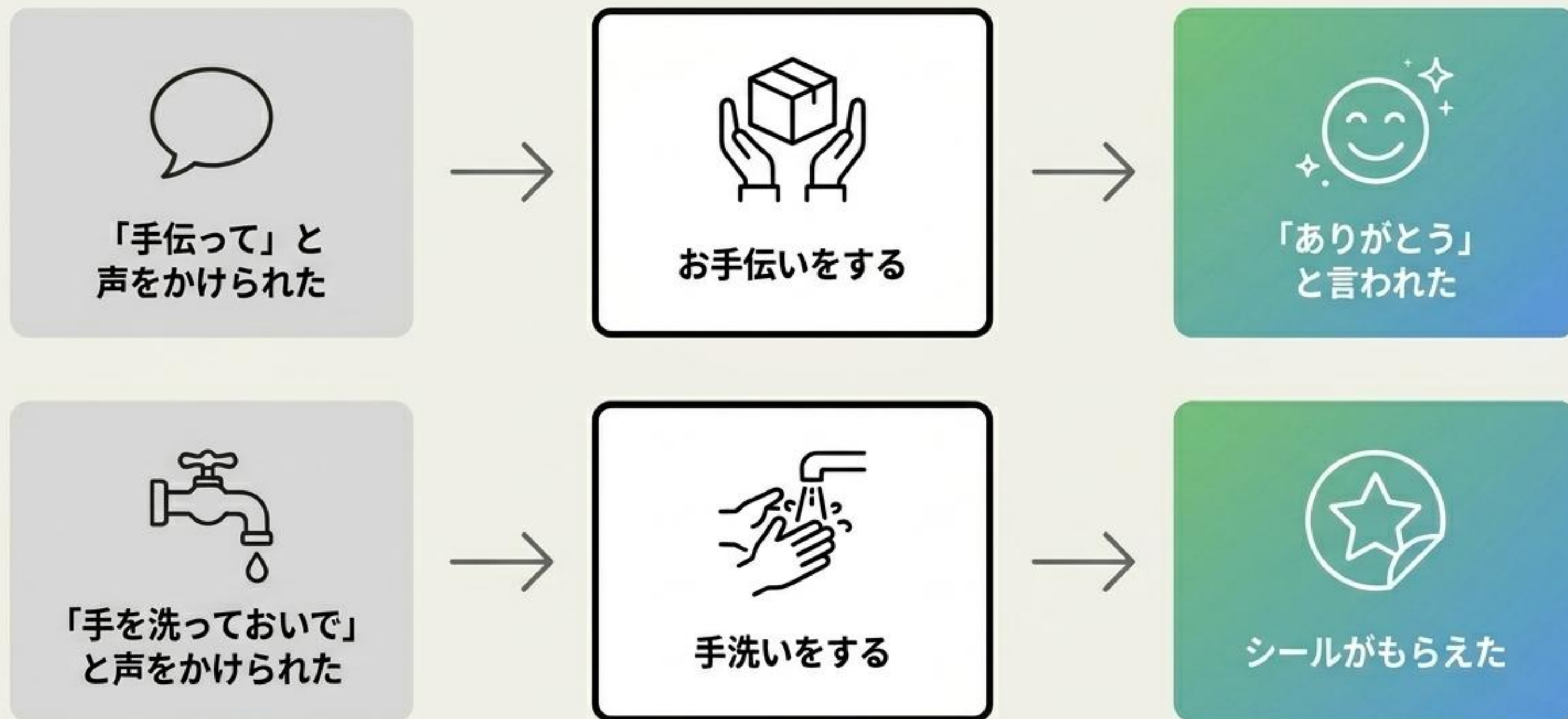
手元のメモで、A・B・Cに分解してみてください。

行動は、その後の「結果（C）」によって維持される



子どもは「叩きたかった」のではなく、「お片付けから逃げたかった/注目されたかった」のが真の目的。

事例 01 / 02 : お手伝いと手洗い



事例 03 / 04：自発的行動と日常習慣



事例 05 / 06 : 構造化とプロンプトの場面



掃除機を渡された



掃除を手伝う



ハイタッチを
してもらえた



毎日決まった
時間になった

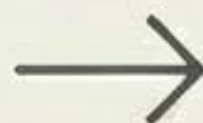
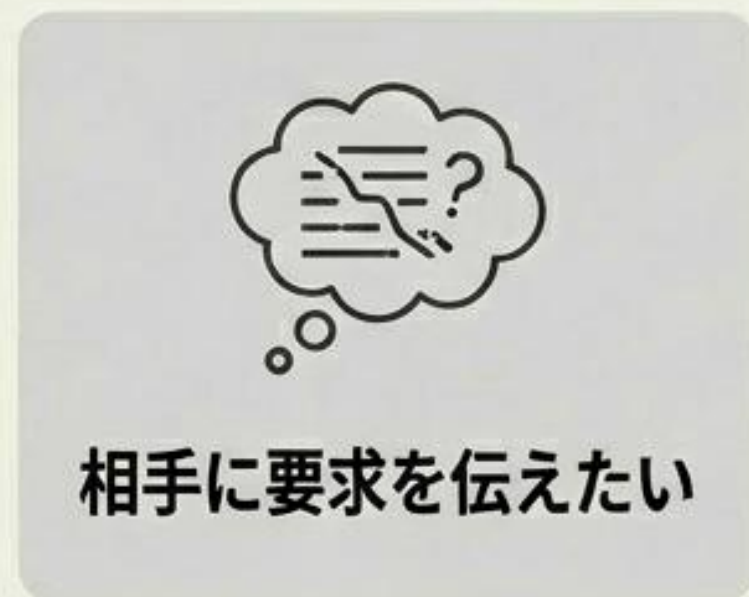


机に向かって宿題をする



花丸を描いてもらった

事例 07 / 08 : 適切な要求の伝達



事例 09 / 10 : 手順と集団生活



朝7時になった



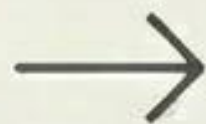
顔を洗って着替える



頭をなでてもらえた



授業中に発言したい



黙って手を挙げる



先生に当ててもらえた

事例 11 / 12：要求達成のための不適切行動



お母さんがお菓子を
持っている



お母さんを叩く



お菓子がもらえた



欲しいおもちゃを
兄弟が使っている



無理やり引っ張って取る



おもちゃが手に入った

事例 13 / 14：泣き叫びと注目要求



スーパーでお菓子を
買ってほしい



大声で泣き叫ぶ



お菓子を買ってもらえた



先生が別の子と
話している

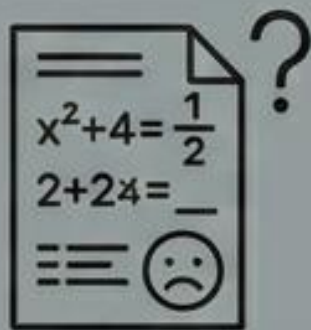


先生を叩く



先生がこちらを見て
注意した

事例 15 / 16：逃避・回避の行動



苦手な課題プリントを
出された



プリントを破る



課題をやらなくて済んだ



片付けの指示が
出た



部屋の隅へ逃げ回る



片付けを回避できた

事例 17 / 18：消去バーストと衝動



要求が通らずお菓子が
もらえなかった



さらに強く
叩く・引っ張る



根負けして
お菓子がもらえた



食事中に退屈になった



席を立ち上がって歩く



家族が追いかけて
かまってくれた

事例 19 / 20：終了の拒否と場所の移動



楽しい遊びを
「おしまい」と言われた



おもちゃを投げる



もう少しだけ
遊ばせてもらえた



買い物中に退屈になった



お店の中を走り回る



スマホを渡されて
動画を見られた

望ましくない行動の理解：感覚刺激が要因となる事例

【事例1：視覚的刺激の探求】



A (きっかけ)：一人で
過ごしているとき (手
持ち無沙汰なとき)



B (行動)：目の前で手
をひらひらさせる



C (結果)：視覚的な心地
よい感覚 (感覚刺激) が
得られる

【事例2：聴覚・身体的刺激の探求】



A (きっかけ)：静かな
部屋にいるとき



B (行動)：「あー」と
大きな声を出し続ける



C (結果)：自分の声や喉の
振動による心地よい感覚
(感覚刺激) が得られる



※外部環境からの報酬（他者の注目やお菓子など）ではなく、行動自体から得られる内発的な感覚（心地よさ）が「C（結果）」として機能している点に注意。

行動問題の4つの機能

機能	生じる結果	なくなる結果
注目	注目が少ない状況 →行動→周囲の注目	いやな注目 →行動→消去
活動 や物	物や活動が入手できない状況 →行動→入手できる。	いやな物や活動 →行動→消去
逃避	いやなことが目の前にある状況 →行動→やらずにすむ	
感覚 刺激	することがない状況 →行動→感覚刺激	いやな感覚刺激 →行動→消去

◆

要求・要望・目的がある

⇒

行動（含不適切）

対応可能

◆

無意識レベル

⇒

行動

対応困難

冰山モデルを用いた 支援の考え方 (自閉症の子どもの例)

- ☐ おやつの時間になると、走って部屋の隅にかくれる
(直前の活動までは全く問題なく参加できる)
- ☐ 声かけするが、かたくなに動こうとせず激しく抵抗する
(他害のリスク有り)

水面下の要因に注目する

障害特性：

- ・先の見通しをもちにくい
- ・苦手な人意識が強い
- ・強いこだわりがある

環境要因：

- ・今日は何のおやつか知らされていない
- ・手洗い場に人が並んでいる
- ・食べる部屋がころころ変わっている

【その他】

- ・おやつの内容
- ・容器
- ・食べる場所
- ・手洗い場
- ・おやつ後の活動
- ・体調
- ・空腹度 など

A : Antecedent

先行条件（状況）

A

A large, empty rectangular box with rounded corners and a thin dark blue border, intended for writing the antecedent.

B : Behavior

行動

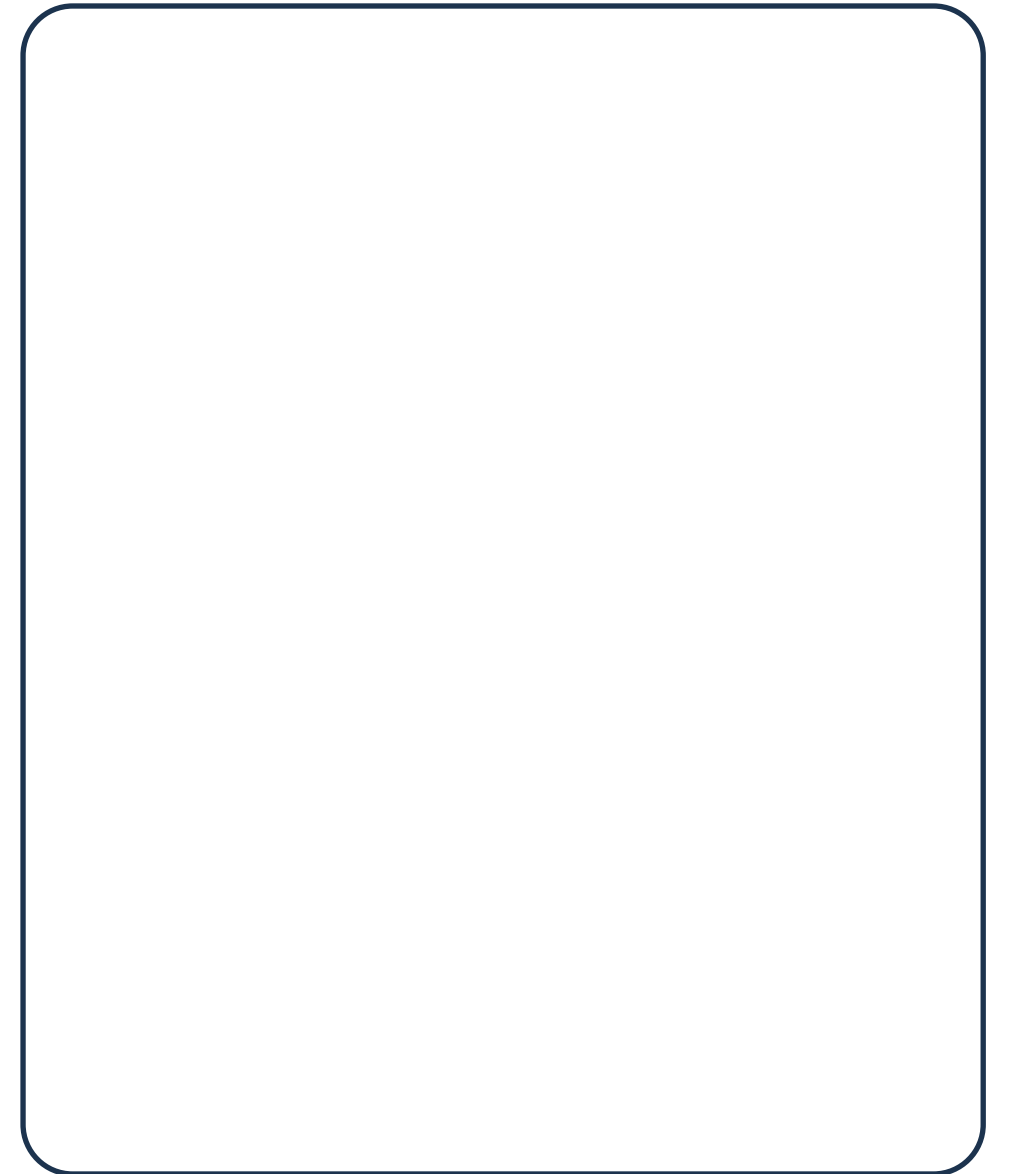
B

A large, empty rectangular box with rounded corners and a thin dark blue border, intended for writing the behavior.

C : Consequence

結果

C

A large, empty rectangular box with rounded corners and a thin dark blue border, intended for writing the consequence.

ABC分析→支援



“ABC分析 → 支援” の考え方

A (状況)

店でほしいものをみつける

B (行動)

「買って～」と
大声で泣き叫ぶ

C (結果)

ほしいものが
手に入る

【3つのポイント】

レベルⅠ 『A』の状況を変える

レベルⅡ 『C』の結果を変える

レベルⅢ 『B』の行動を変える

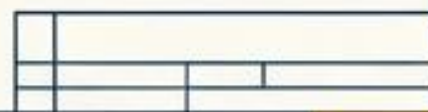
① 代わりの行動をつくる

② 望ましい行動をつくる

TEACCH理論：世界を「翻訳」する設計図

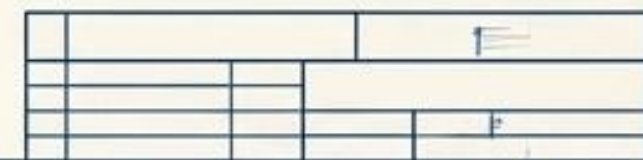
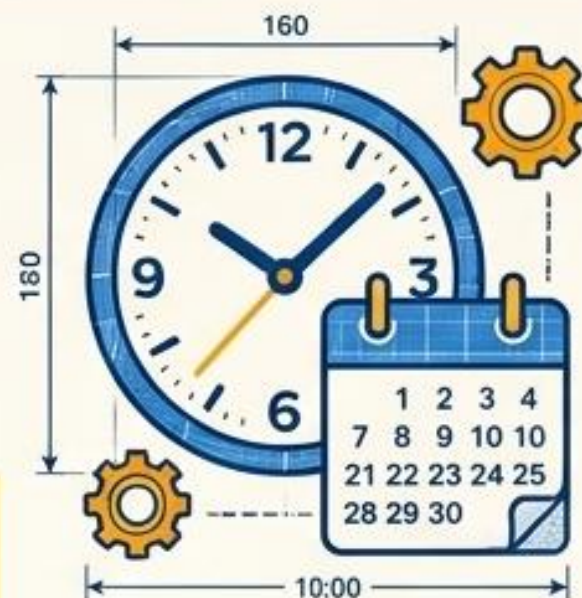
物理的構造化

環境の整理
(空間の意味を明確に)



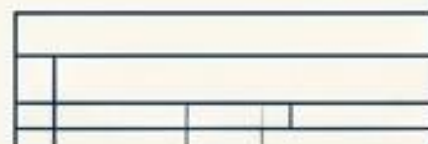
時間の構造化

予定の視覚化
(いつ始まり、いつ終わるか)



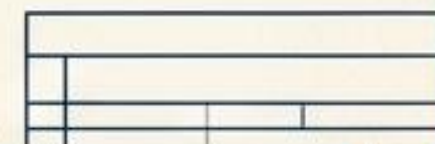
活動の構造化

手順の提示
(何をどうすればよいか)



視覚的支援

絵カード・リスト
(言葉より目で見える情報)

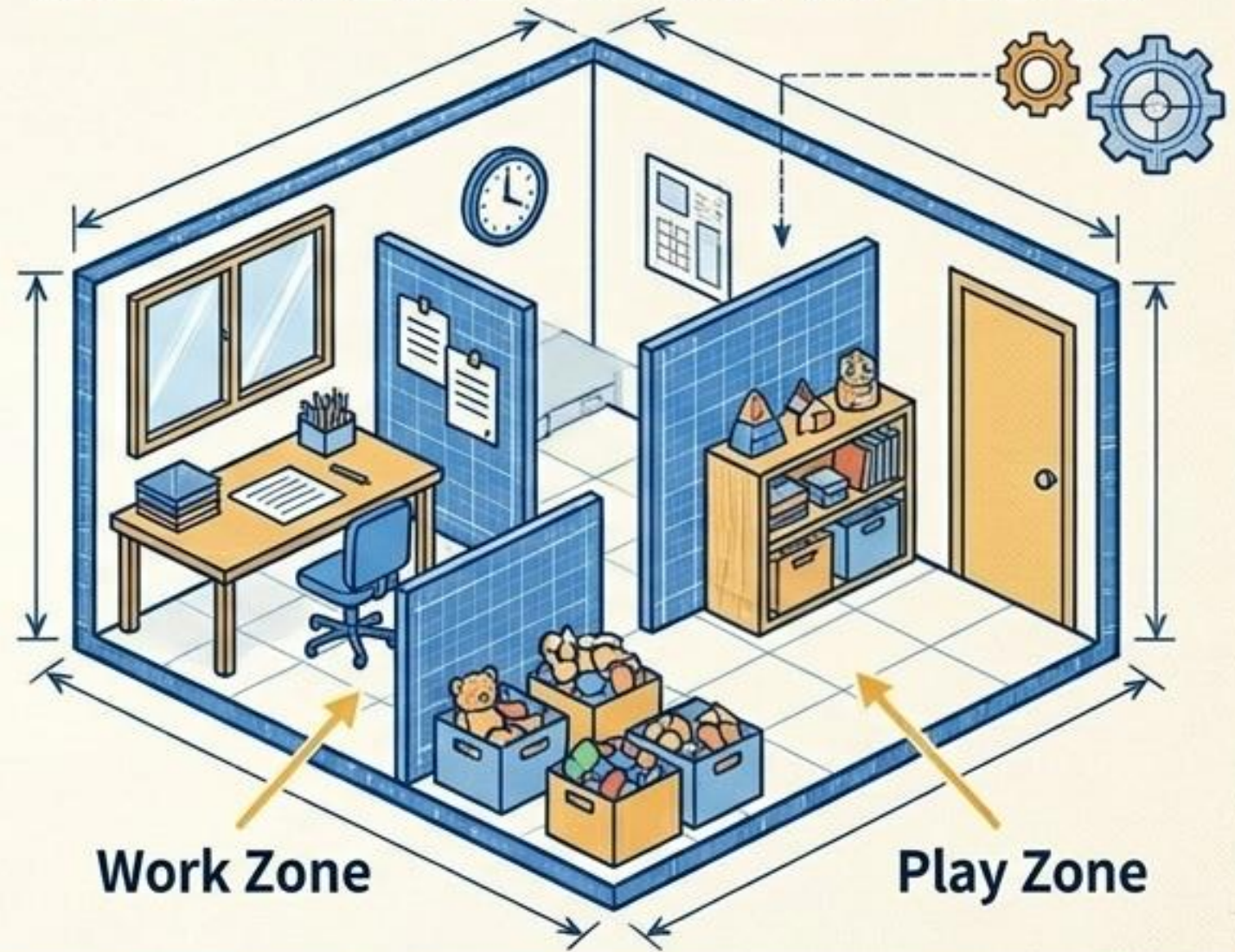


物理的構造化：空間の意味を明確にする

未調整の環境（混乱と不安）



物理的に構造化された環境（集中と安心）



目的：ASD児童が理解しやすい環境を作る

方法：活動エリアをパーティションや家具で区切る

効果：視覚的な刺激（ノイズ）を減らし、集中と安心を生む

物理的構造化



活動の領域別に教室等を区切り、この場所ではこの活動をするというように、活動と場面を対応させて構成する



教科ごとにグループを替える
机の配置や向きを変えるなど

【特別教室】

いつも一定の活動をするので、
何をするのかがわかりやすい



教室の後ろにいすを用意して
休憩する場を作る など



物理的構造化2



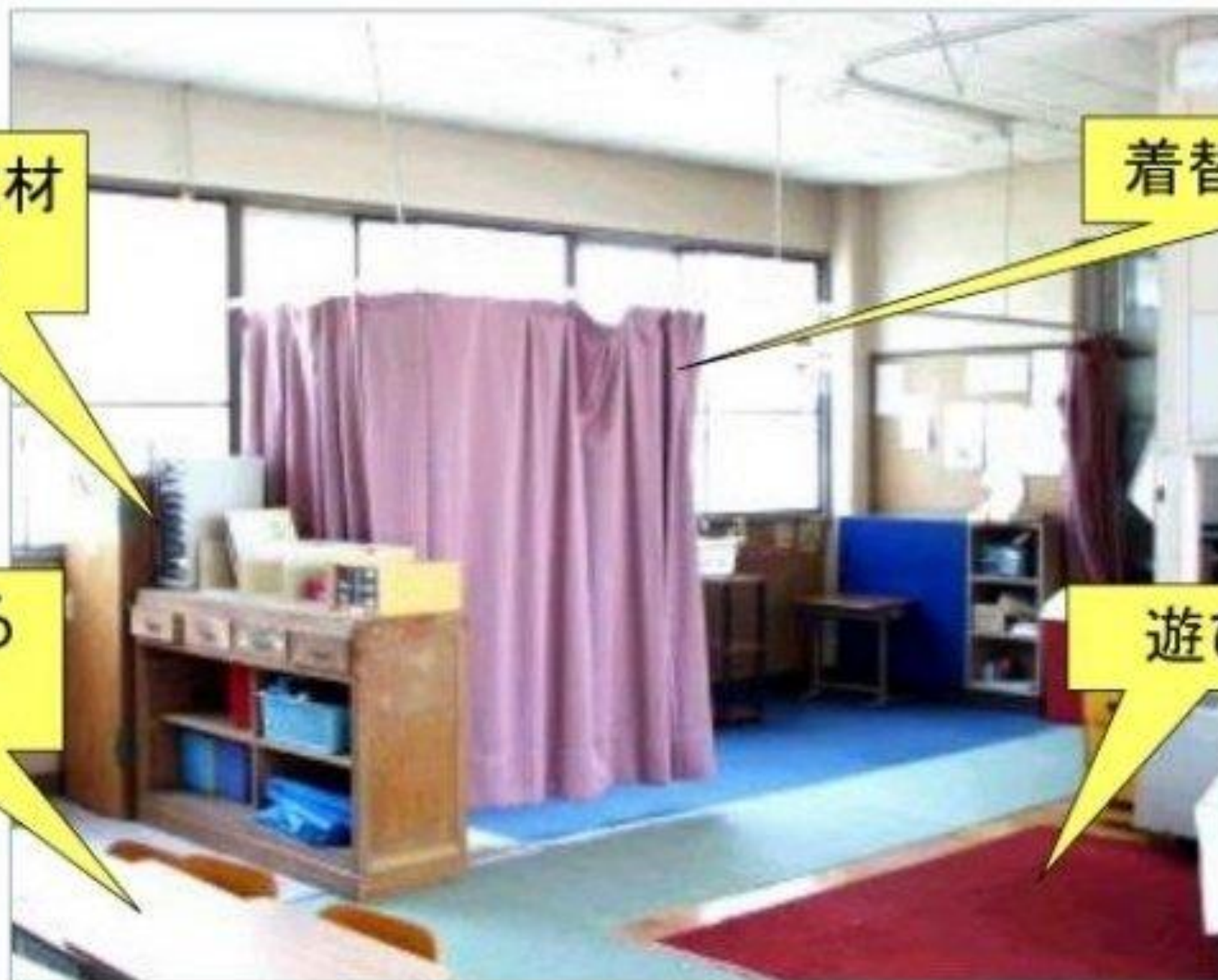
【活動ごとに教室を区切り活動と場面を対応】
着替え、学習、食事等をする場所を区切る

個別の教材
置き場

学習する
場所

着替えの場

遊び場



時間の構造化：未来を予測可能にする



課題

「次何が起こるか分からない」状態は極度のパニックを引き起こす。

解決策

1日のスケジュールを視覚的なルーチンで提示。

効果

予定変更の際も、言葉ではなくスケジュール表を書き換えることで納得しやすくなる。

時間の構造化

7:00

7:10

トイレ

7:15

あさごはん

7:30

ハミガキ

7:45

きがえ

8:15

にものじゅんぴ

8:30

いってきます

おきる

ひにち ようび	8 日	9 月	10 火	11 水	12 木	13 金	14 土
	いえ	ようちえん	ようちえん	ようちえん	ようちえん	ようちえん	いえ
よてい			りょういく		りょういく		プール
							ハンバーガー

ひにち ようび	15 日	16 月	17 火	18 水	19 木	20 金	11 土
	おでかけ	ようちえん	ようちえん	ようちえん	ようちえん	ようちえん	家
よてい	どうぶつえん		療育		療育		
				ようちえん	家	プール	

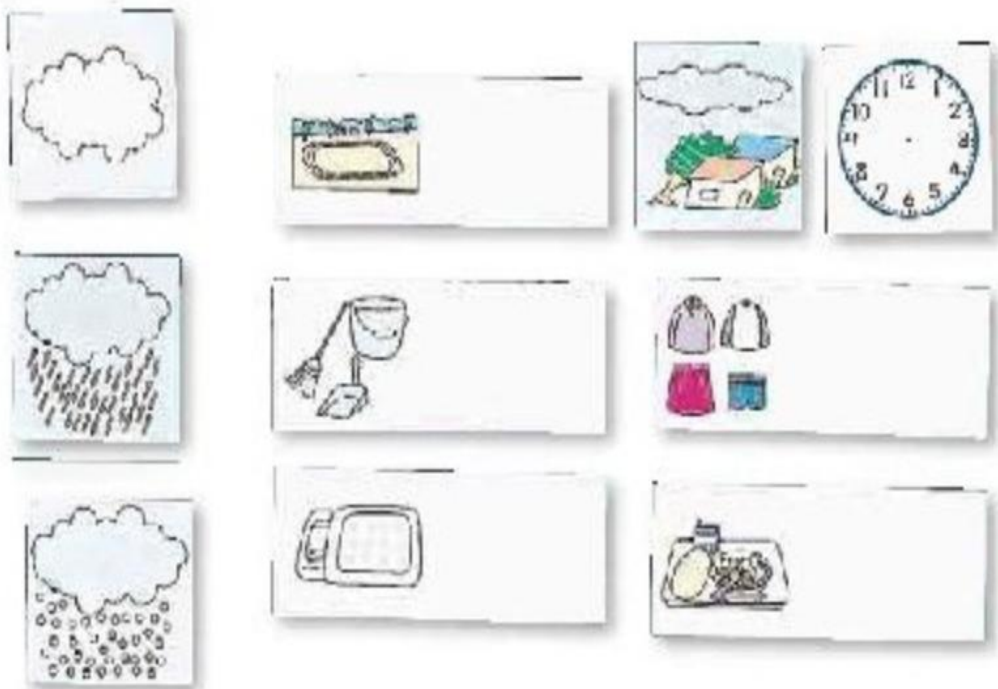


時間の構造化

文字とイラストで一日の活動をわかりやすく提示します。



- 文字をホワイトボードマーカーで記入し、一日の活動をわかりやすく提示します。
- 文字・イラストを手がかりにすることで、よりわかりやすくなります。

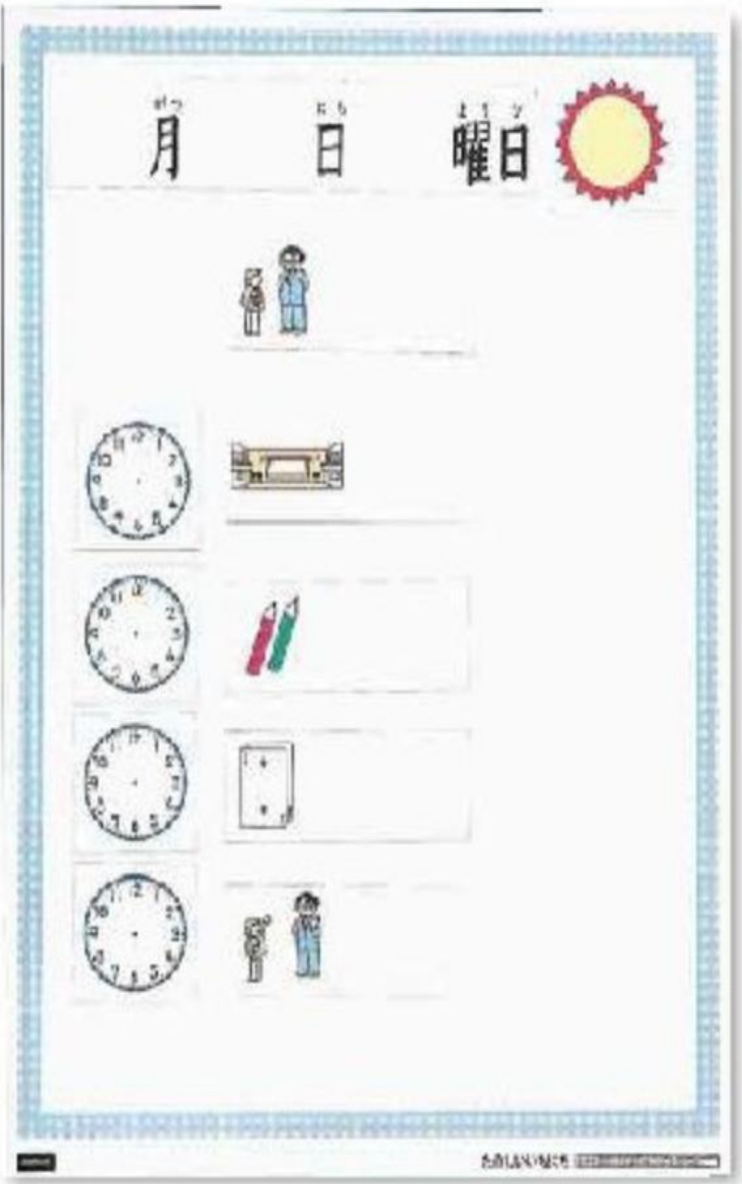


マグネット
シート

ウチタのしいいちにち 教授用

型番	本体価格	税込価格
8-342-0017	¥23,000	¥25,300

●材質:PET樹脂マグネットシート ●寸法:本体シート(850×600mm)、付属カード/単元カード(80×200mm) 10枚、日付カード(80×400mm) 1枚、時計カード(100×100mm) 5枚、天気カード(100×100mm) 5枚 ●付属品:マーカー3本(黒・赤・青)、ラッフル1個



(使用例)

※デザインが変わる場合があります。

活動の構造化と視覚的支援：自立を促す

消えてしまう聴覚情報（混乱）



空間に留まる視覚情報（自立）



手順の提示（始まりと終わり）を明確にし、
支援者に依存せず自ら行動できる仕組みを作る。

活動の構造化



てをぬらす



せっけんをてにだす



せっけんであらう



みずでよくながす



ペーパータオルでふく



こップにみずをいれる



くちにみずをふくむ



うえをむいて うがいをする



みずをだす



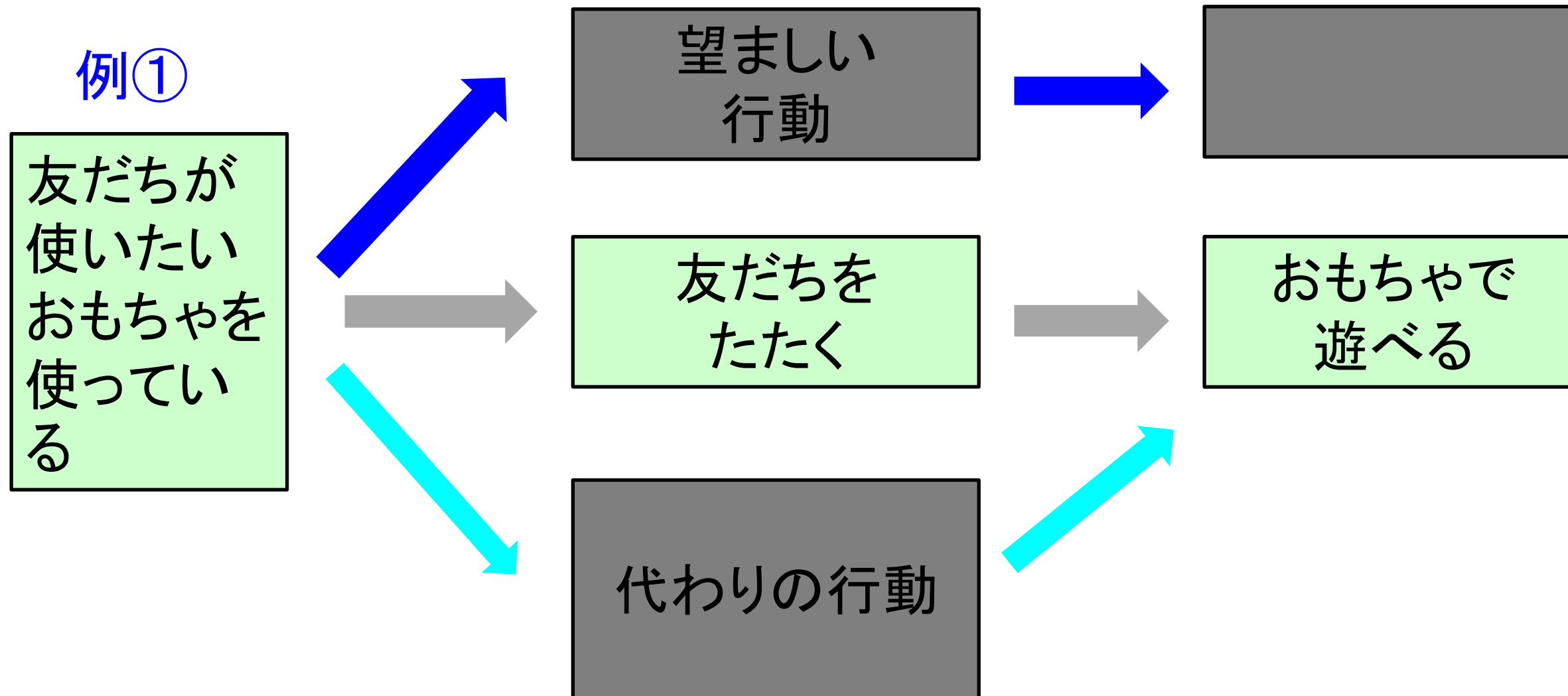
視覚的支援



イー 1 望ましい行動を身に付けさせる (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

【子どもの力を高める支援を検討する】



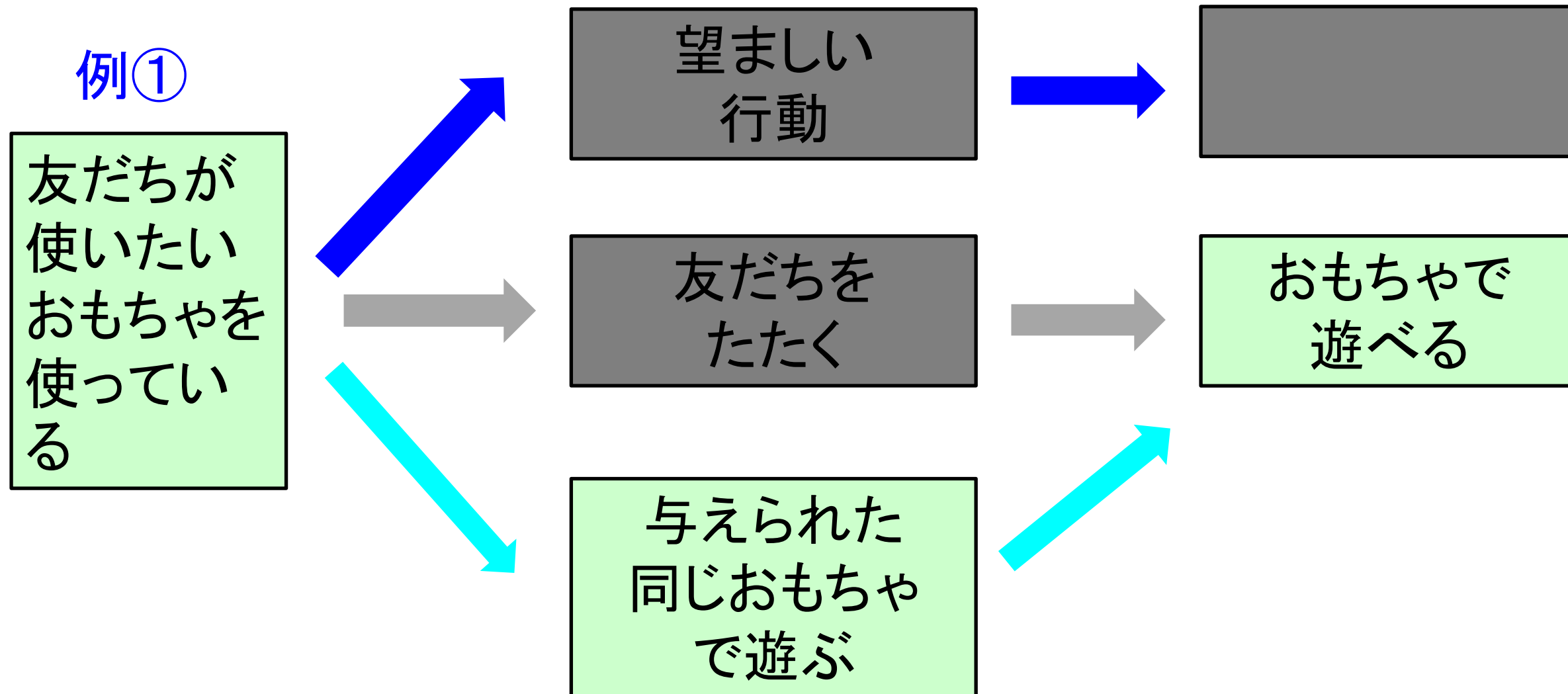
※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！

子ども観察力 & 支援力養成ガイド

イー 1 望ましい行動を身に付けさせる (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

【子どもの力を高める支援を検討する】



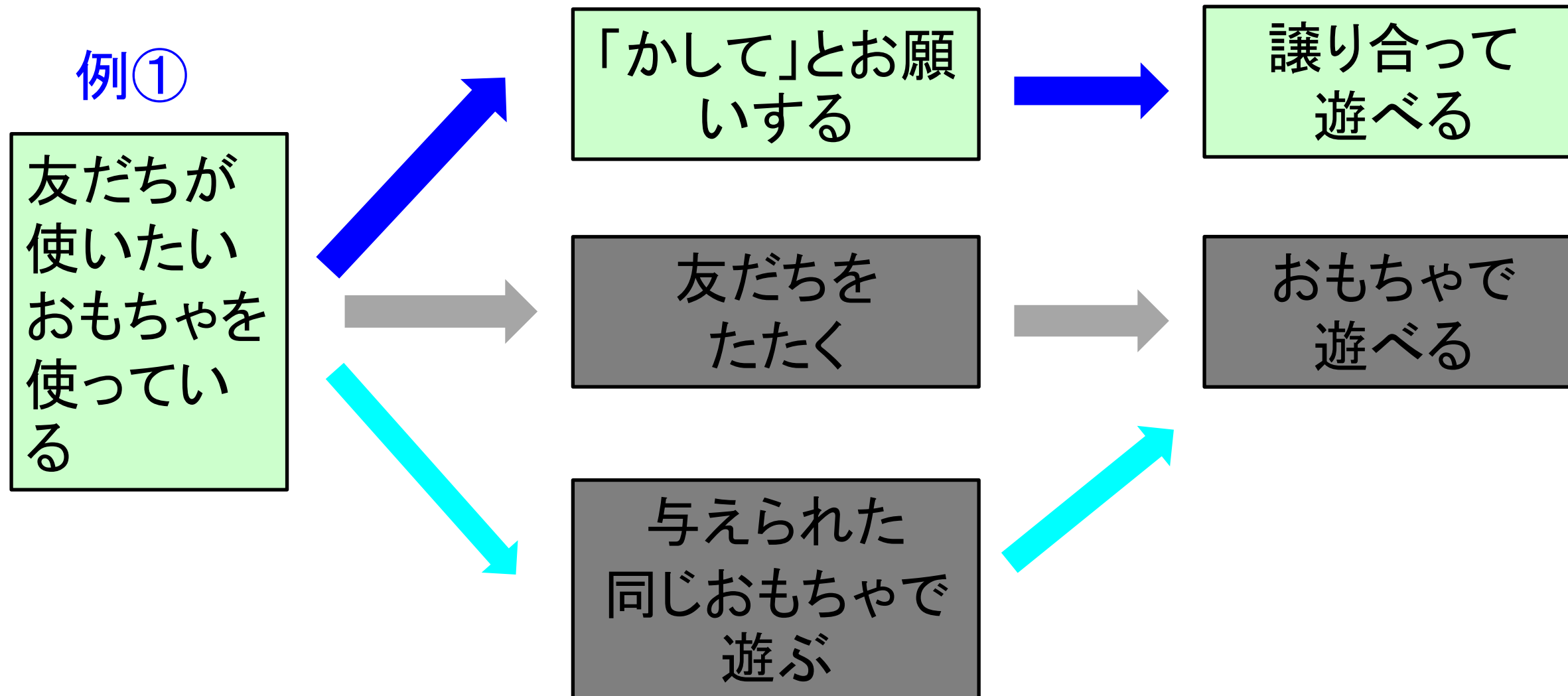
※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！

子ども観察力 & 支援力養成ガイド

イー 1 望ましい行動を身に付けさせる (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

【子どもの力を高める支援を検討する】



※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！

子ども観察力 & 支援力養成ガイド

【状況】 高等部 1 年生のB君は、**「教室の掃除用具ロッカーに入り込む」**という不適切な行動が多い生徒でした。その行動は、何もすることがない暇な状況で特によく起こすようでした。ロッカーに入り込むと、何かブツブツ言っていたり鼻歌を歌っていることが多いのです。

そこでまず取り組んだことは、これまで好き勝手に入り込める状況だったのを、

- ① **「きゅうけい」カードを担任に渡さないと入れないルールを徹底**（カードを渡せば入ることを許可される）

次にこのルールが定着したことを見定めてから、

- ② **一日に使えるカードの枚数を徐々に減らしていった。**

最初は10枚使えたのを、**2週間かけて5枚にまで減らしていった。**

それに伴い順調にその制限枚数に収まるように入り込む回数と総時間数が減っていきました。

さらに暇な時間をできるだけ減らすために、

- ③ **iPadでYouTubeの動画を見ることに誘導**

B君は昔懐かしい「東京フレンドパーク」を見ることがお気に入りなのですが、

iPadを手の届かない棚の中にしまっておく

とそこを指差して、「フレンドパーク！」と一語文で要求するようになりました。

そこでさらに欲張って、

「フレンドパーク、見せてください」という二語文で言うように教えていった

ところ、それも定着しました。

そうこうしているうちに、今ではロッカーに入り込むことは全くなくなりました。

不適切行動を減らすために

不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）

【不適切行動が強化され

ている状態を断ち切る】

方法① 刺激の撤去

方法② 消去手続き（計画的無視）

方法③ 嫌悪刺激の呈示（罰）

方法④ 分化強化手続き

ア 低頻度分化強化：不適切行動の回数や時間が基準以下の場合に強化する

イ 他行動分化強化：不適切行動が起きていない場合を強化する

ウ 対立行動分化強化：同時に実行できない代替りの行動を強化

エ 代替行動分化強化：不適切行動に置き換わる代替りの行動を強化

段階：【指示】 → 【再度指示】 → 【警告】 → 【罰】 ※ 事前合意